2021年度 防災教育 チャレンジプラン 活動報告会

Disaster Management Education Challenge Plan Competition

2021年度
防災教育
チャレンジプラン
成果発表

2022年度
防災教育
チャレンジプラン
決定・発表

日時 2021年2月12日(土)13:00～17:20

開催形式：オンライン

www.bosai-study.net

主催：防災教育チャレンジプラン実行委員会、内閣府（防災担当）、国立研究開発法人防災科学技術研究所
共催：一般社団法人防災教育普及協会
後援：消防庁、文部科学省、国土交通省、全国知事会、全国市長会、全国町村会、日本赤十字社、全国都道府県教育委員会連合会、日本ＰＴＡ全国協議会
防災未来賞ぼうさい甲子園事務局

河川基金
公益財団法人河川財団による
河川基金の助成を受けています。

防災教育チャレンジプランとは？

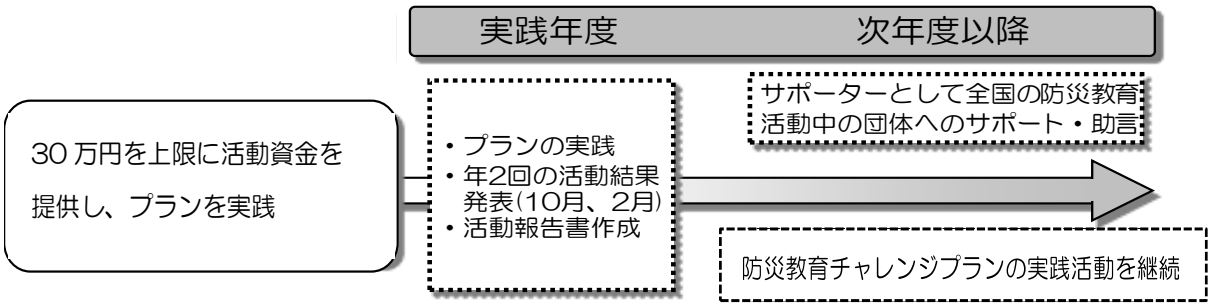
■　防災教育チャレンジプランの目的

国内外で大規模な災害が起きている昨今、またいつ災害がやってくるかわかりません。防災教育チャレンジプランは、このような災害に備え大切な命を守り、できるだけ被害を減らし、万が一被害があった時すぐに立ち直る力を一人一人が身につけるため、全国の地域や学校で防災教育を推進するためのプランです。

全国各地の防災教育への意欲をもつ団体・学校・個人等に対し、より充実した防災教育のプランを募集し、「防災教育チャレンジプラン」として選出した上で、その実践への支援を行います。

１年間の実践の後、その実践例や支援した取り組みの内容を活動報告会を通じて広く公開・共有するとともに優れた実践の表彰を行うことで、全国の防災教育に取り組む団体・学校・個人やそのプランに光をあて、各地域で自律的に防災教育に取り組むことのできる環境づくりを目指します。

■　防災教育チャレンジプラン実践団体の構成と実践スケジュール



実行委員の紹介

（委員長）
林　　春男　国立研究開発法人防災科学技術研究所　理事長
池田　真幸　国立研究開発法人防災科学技術研究所　災害過程研究部門　特別技術員
市川　啓一　株式会社レスキューナウ危機管理研究所　代表取締役
井上　浩一　防災ネットワークプラン　代表
鍵屋　　一　跡見学園女子大学観光コミュニティ学部コミュニティデザイン学科　教授
金田　義行　香川大学四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構
副機構長・地域強靭化研究センター長・学長特別補佐・特任教授
甲　　健太　特定非営利活動法人日本ジオパークネットワーク　事務局
木村　玲欧　兵庫県立大学環境人間学部・大学院環境人間学研究科　教授
国崎　信江　株式会社危機管理教育研究所　危機管理アドバイザー
栗田　暢之　認定特定非営利活動法人レスキューストックヤード　代表理事
酒井　慎一　東京大学大学院 情報学環・学際情報学府　教授
佐藤　公治　南三陸町立歌津中学校　主幹教諭
佐藤　　健　東北大学　災害科学国際研究所　防災実践推進部門防災教育実践学分野　教授
澤野　次郎　災害救援ボランティア推進委員会　委員長
諏訪　清二　防災学習アドバイザー・コラボレーター
中川　和之　株式会社時事通信社　解説委員
中村　一樹　国立研究開発法人 防災科学技術研究所 イノベーション共創本部共創推進室 室長
平田　　直　国立研究開発法人 防災科学技術研究所 首都圏レジリエンス研究推進センター
センター長　兼　東京大学地震研究所特任研究員
福和　伸夫　名古屋大学減災連携研究センター　センター教授
舩木　伸江　神戸学院大学現代社会学部社会防災学科　教授
舟生　岳夫　セコム株式会社ＩＳ研究所リスクマネジメントＧ　主務研究員
松尾　知純　防災ゲート・パートナーズ　代表
南島　正重　東京都立両国高等学校附属中学校　主幹教諭
村山　　猛　千葉県教育庁企画管理部教育総務課障害者雇用推進班　主幹
五島　政一　国立教育政策研究所 教育課程研究センター基礎研究部　総括研究官
小長井　彰祐　国土交通省水管理・国土保全局防災課　防災企画官
田村　一郎　消防庁国民保護・防災部防災課　地域防災室長
福田　和樹　文部科学省研究開発局地震・防災研究課　防災科学技術推進室長
村上　威夫　内閣府政策統括官（防災担当）付 参事官（普及啓発・連携担当）
森本　晋也　文部科学省総合教育政策局男女共同参画共生社会学習・安全課　安全教育推進室
安全教育調査官

（2022 年 1 月 31 日現在、所属役職別 50 音順、敬称略）

プログラム

13:00 開会

13:00 開会挨拶

防災教育チャレンジプラン実行委員長　林　春男
内閣府大臣官房審議官（防災担当）　内田　欽也

13:10 2021 年度 実践団体発表①　司会 ： 防災教育チャレンジプラン実行委員　中村 一樹

※発表 1 団体 10 分＋全体予備 15 分

13:10～ ① 犬山市立楽田小学校
13:20～ ② 名古屋市立工芸高等学校　都市システム科／工芸防災チーム
13:30～ ③ 糸魚川ジオパーク協議会
13:40～ ④ 長岡技術科学大学
13:50～ ⑤ 京都府立東稜高等学校キャリアコースライフマネジメントクラス
14:00～ ⑥ 愛知県刈谷市井ヶ谷町内会体育部

13:10 2021 年度 実践団体発表②　司会 ： 防災教育チャレンジプラン実行委員　池田 真幸

14:10～ ⑦ 岡山大学教育学部・酒向研究室
14:20～ ⑧ 減災 Days
14:30～ ⑨ 千葉県立銚子高等学校
14:40～ ⑩ 信州大学防災フォトロゲイニング実行委員会
14:50～ ⑪ 倉敷市教育委員会
15:00～ ⑫ 京都市立塔南高等学校

15:25 休 憩　《10分》

15:35 2022 年度実践団体 プラン発表・意見交換会

ブレイクアウトルーム方式で実施
※下記、防災教育チャレンジプラン 2022 年度実践団体（12 団体）と 2021 年度実践団体（12 団体）、防災教育チャレンジプラン実行委員が各ルーム内で意見交換を行います

ルーム 1	ルーム 2	ルーム 3
司会：佐藤公治委員	司会：村山猛委員	司会：栗田暢之委員

＜2021 年度防災教育チャレンジプラン実践団体＞
① 愛知県立ひいらぎ特別支援学校
② 静岡県立駿河総合高等学校
③ 江戸川区立一之江小学校
④ 2011 team 釜石小ぼうさい
⑤ 見てみようよ!常総市の会
⑥ 犬山市立楽田小学校
⑦ 減災 Days
⑧ 東京都立調布特別支援学校
⑨ 愛知工業大学名電高等学校
⑩ 愛知県刈谷市井ケ谷町内会体育部
⑪ 信州大学観光防災マップ活用グループ
⑫ 文京 de BOSAI

16:50 休 憩　《5分》

16:55 2021 年度 防災教育チャレンジプランの表彰

表彰団体発表

17:10 2021 年度 防災教育チャレンジプランの講評

防災教育チャレンジプラン審査委員長　渡邉 正樹

17:15 閉会挨拶

防災教育チャレンジプラン実行委員長　林 春男

17:20 閉会

17:20～17:30 2022 年度実践団体 説明会

※15:35 より、別ルームにて 2021 年度防災教育チャレンジプラン審査委員会を開催

①犬山市立楽田小学校

プラン名	Let's　プロテクト　犬山
プランの対象	小学５年生
所在地	都道府県：愛知県 市町村：犬山市

―プランの目的・ここがポイント！

犬山地区の東部は山に囲まれていて、地域には砂防ダムが各地にある。また、砂防ダムが展示されている公園（小野洞川砂防公園）がある。この公園の見学や管理者の解説を聞くことで、地域の防災施設をより深く知ることができるだろう。

さらに、本地区は明治期から昭和初期にかけてはげ山が多くあり、大雨の度に土石流が流れる地域であった。この山を東京大学が犬山研究林（東大演習林）において再生を果たした。この取組を、知ることによって、森を守ることが防災につながっていることを理解することができるだろう。

これらの地域の特性を学ぶ防災教育カリキュラムを作成することを本プランの目的とする。

―プランの概要

防災教育において社会と理科の親和性は高い。５年生において、社会の「低い土地のくらし」を起点に、理科の川の学習で災害について学ぶ。最終単元として、今後、我々の暮らしをどのように変えていけば、災害が起こったとしても、持続可能な生活ができるか議論をして、自分なりの考えを「防災新聞」という形でまとめることにする。

―期待される効果・ここがおすすめ！

☆社会と理科のカリキュラムマネジメントで、効果的な学習
☆児童に自然災害は身近に起こりえることと意識できるようにする。

自分の家の周りでも危険があることを知り、自然災害に対する意識を高くすることができた。また、児童が災害に対して過剰な恐怖心を抱くよりも、どのように自分の身を守るかという視点で考えられるようになったと考えている。

―成果として得たこと

年間を通したカリキュラムマネジメントを行って、計画的に児童の防災意識を高めることに費やした1年であった。授業を通しての意識の変容は以下の結果となった。

とても高くなった**32.3%**／高くなった**63.4%**／あまり高くなっていない**3.2%**／高くなっていない**1.1%**

その理由としては、次の通りである。

「身近な話題」**40.9%**／「体験や見学があったから」**51.6%**／「話がわかりやすかった」**34.4%**

さらに１年間の中で一番印象に残った授業が砂防ダム見学（**53.8**%）となった。本取り組みに対する児童の満足度は、満足とやや満足で**95.7**%を占め、大変充実した実践となった。

―全体の反省・感想・課題

準備にかけられる時間が少なく、試しの取り組みとして実践したが、その分スタッフや講師の方を迷わせてしまった面が多くあった。助けていただいた。

カリキュラムで大変なのは１年目であり、その創作に費やすエネルギーはかなり必要となる。だが、学校にありがちな課題は、継続である。せっかくつくったカリキュラムを、次の年に担当が変わるとないがしろにされることは、日常茶飯事である。継続のための作戦を、次は考えて積み上げていきたい。

―今後の継続予定

本取り組みのポイントである持続可能な取り組みを前面に出した実践を来年度も引き続き行いたい。まずは、来年度の体制をしっかり組み直し、組織で生み出した財産を活かすマネジメントに努めたい。

②名古屋市立工芸高等学校　都市システム科／工芸防災チーム

プラン名　防災について考え、行動できる人の輪づくり
～住民の、住民による、住民のための防災訓練～の支援

プランの対象　全ての方々

所在地　都道府県：　愛知県
市町村：　名古屋市

―プランの目的・ここがポイント！

新型コロナウイルス感染症の拡大により、社会のあり方が大きく変革してきました。防災も例外ではなく、このチャレンジプランの活動もリアルからオンラインへという流れに順応してきています。

そのような中で、これまで以上に小規模（学校・地域・行政）な単位での防災教育や、防災活動の実施も余儀なくされており、私たち工芸高校では、過去２年間の取り組みを有効に活用し、知的財産の「パッケージ化」に取り組みました。

―プランの概要

2019年度からの活動に引き続き、「蓄光ブロックによる避難誘導」、「浸水害擬似体験装置の開発」に加え、新たに「ファーストミッションボックス（FMB）の作製」、「防災公園の設計」を行うとともに、これまでの成果を広く公表するために「防災活動の成果の公表」にも力を入れました。

―期待される効果・ここがおすすめ！

- 「防災」だけでなく「防災対策」に目を向け、それを自らの力で考え出すことができました。
- 「いのちを守ることの大切さ」や防災に関する活動を通して「自己有用感」が増大し、意欲的に取り組む生徒が多くなりました。

―成果として得たこと

【蓄光ブロックによる避難誘導】
【浸水害擬似体験装置の開発】
- 様々な世代が参加して防災対策を施すことができるパッケージ化に概ね成功しました。

【FMBの作製】
- 生徒自身が被災時の自身の生活環境に思いを巡らし、生活に必要な最低限の食料、空間、就寝環境、排泄環境の検討を行うことにより、防災を「自分事」として考えられるようになりました。

【防災公園の設計】
- これまでに学んできた知識を用いて、「強さ」だけでなく、「しなやかで多機能」に着目し、防災公園を設計することを通して、他者の想いに自らの思いと知識・技能を重ねて具現化する手法を身に付け、また識者の評価をフィードバックすることで、それらを高めることができました。

―全体の反省・感想・課題

常日頃考えなければならない「防災」。でも、現実は目の前のことに一生懸命なのに加えて、社会の変化が速い昨今、目が行き届いていないのが現実ではないかと思います。まず「防災」に取り組もうとするのであれば、「ちょっとだけ考える余裕をもつための『勇気』を持つ」ことが大切だと思いますし、その「勇気」が大きな成長の果実になると思います。

―今後の継続予定

成果の公表を以てつながった、外部機関（１企業１機関）と防災に関する連携活動を実施する予定です。

③糸魚川ジオパーク協議会

プラン名	活火山の新潟焼山を知る！楽しむ！備える！プロジェクト
プランの対象	児童・生徒 地域住民
所在地	都道府県：新潟県 市町村：糸魚川市

―プランの目的・ここがポイント！

ジオパークが得意とするボトムアップ活動として、糸魚川市内にある活火山「新潟焼山」を対象に、児童生徒や地域住民が焼山について楽しみながら知る機会を設け、ハザードマップを利用した集落ごとのきめ細かいワークショップを開催し、地域一体となった防災減災活動に繋げます。

―プランの概要

- 糸魚川白嶺高校での防災学習と国際フォーラムでの発表
- 地域住民とつくる新潟焼山ツアーの開催
- 糸魚川白嶺高校の美術部の協力で新潟焼山のことが楽しくわかる紙芝居作成
- 集落の全世帯を対象としたジオパークのネットワークを生かした防災学習の実施

―期待される効果・ここがおすすめ！

糸魚川白嶺高校と協力することで、新潟焼山を知る次世代の防災リーダーを育成することが期待できる。地域住民の意見を取り入れながら焼山ツアーを開催することで、ジオパークらしいボトムアップの活動を推進する。作成した紙芝居を保育園や図書館で活用することで、0歳から新潟焼山に興味を持つ環境を構築する。公民館単位ではなく集落単位でのきめの細かい防災学習を、他地域のジオパークや気象台、大学と協力して実施することで、地域の防災力を向上させる。

―成果として得たこと

糸魚川白嶺高校と協力し、10月（新型コロナの感染拡大により９月までは延期）から外部講師も含めた新潟焼山の防災学習を実施することができた。生徒が焼山の何を知りたいかを重視し、ワークショップで講義内容について意見を募集した。外部講師は、新潟大学の片岡教授（新潟焼山火山防災協議会学術委員）、島原半島ジオパークの杉本さん（火山防災エキスパート）・森本さん、洞爺湖有珠山ジオパークの加賀谷さんにお願いし、他地域の事例も含めた講義を実施することができた。成果は、２月４日に室戸ジオパークが開催する高校生国際交流会で発表する予定である。

新潟焼山ツアーや新潟焼山のある早川谷の全集落を対象とした防災学習は、地元住民との話合いの中で実施していく予定である。
11月に開催したツアーは、新潟焼山の「湧水」と「食」に着目し、災害と共に地元住民が受けた恵みについて、紹介することができた。

糸魚川白嶺高校の美術部の協力で新潟焼山のことが楽しくわかる紙芝居の作成を進めている。保育園や図書館に配布することで、0才（保育園・幼稚園）から18才（高校生）まで新潟焼山の防災学習を進める環境が整いつつあるといえる。

―全体の反省・感想・課題

コロナ禍の中での活動ということもあり、ツアーや学校での活動が大きく制限された１年間だった。その中でも、Zoomなどを活用し、幅広い人材と交流できたことは次に繋がると考えている。

―今後の継続予定

糸魚川白嶺高校とは2021年12月に連携協定を締結し、防災学習・地域振興などでより一層連携していく予定である。早川谷の全集落を対象とした防災学習は、今後も継続していきたい。

④長岡技術科学大学

プラン名	地域レジリエンス力獲得のための防災ワクチン ™ 教材の開発
プランの対象	小学校高学年の部 中学校の部
所在地	都道府県：新潟県 市町村：長岡市

―プランの目的・ここがポイント！

本学では、地域の小中高生を対象に科学教室を実施してきた。これまで構築してきた地域ネットワークを活用し、SDGsハブ大学として激甚化する災害に対する地域へのレジリエンス力向上を図るための防災教育を着想した。本防災教育では、弱毒化した災害体験により、地域の主体性を高め免疫力を向上する方法である「防災ワクチン®」の概念のもと総合的な防災力を養うことを目的とした。そのために、災害の模擬体験を行うことで自分達の持つ災害対応力を向上させる「防災ワクチン®」教材として開発しその効果を確認し、この教育教材の活用方法について産学官で検討した。

―プランの概要

開発した防災ワクチン®教材は、災害が発生したときに生じる現象を想像し、を実際に触れて体感してもらい、考えてもらえるような実験キットで、水害発生時に浸水した家屋内の電気ブレーカーを再現し、電気が水を通しやすいことや通電火災が発生するメカニズムを学習する。これにより、避難時に電気ブレーカーを落とすことによって通電火災の発生を予防することや電気ブレーカーの構造を理解することで住宅内の通電状況を把握する方法等を学習してもらう。

―期待される効果・ここがおすすめ！

防災教育によってSDGsゴールに貢献するように防災ワクチン®が浸透し、各家庭や地域コミュニティへ波及していくことでレジリエンス力を有する地域の形成を目指す。

―成果として得たこと

防災教育チャレンジプランを通して防災ワクチン®教材の初版である電気ブレーカー学習キットを作製することができた。また、学習指導要領との整合性を確認するとともに防災学習指導案を作成した。本防災ワクチン®教材を用いて小学校で出前授業を行ったところ小学生の電気ブレーカーの原理の理解、復旧の方法などを効果的に学習してもらうことができ、更に、災害が発生し避難する際に電気ブレーカーを落として避難してもらうことで避難から戻ってきた際に素早く復旧作業に移れること、このことが地域のレジリエンス力向上に向けた一歩になることを学習してもらった。複数の防災産業展に展示し、防災教育関係者に紹介するとともに貴重なコメントをいくつかいただけた。さらに、本防災ワクチン®教材の製品化を検討する企業ともマッチングできた。

―全体の反省・感想・課題

- 評価委員からのコメントより、学生から社会全体への広がりについて検討する必要があると認識した.
- SDGsとして防災ワクチン®を広く展開・継続するためには、社会の共感を得て、教材をビジネス化する必要がある.

―今後の継続予定

- 地元企業との産学連携、官(地元 長岡市)の補助金を得て広がりと継続へ発展
- RISCON(危機管理産業展)、感染症対策・防災産業展示会に試作機を展示、さらに多くインパクトを与え商品化の道が開けた.
- 今後、全国展開できる防災教材として Made in Niigata を発信する.

⑤京都府立東稜高等学校キャリアコースライフマネジメントクラス

プラン名　実践マネジメント第２章―京都東稜のぼうさい普及活動―

プランの対象　高校生、保護者
小学生、地域住民等

所在地　都道府県：京都府
市町村：京都市伏見区

―プランの目的・ここがポイント！

京都で唯一の防災カリキュラムを取り入れている本団体は、「インプットからアウトプットへ」をテーマにぼうさい普及活動を進めてきた。今年度は、コロナ禍の状況下で、ICTを組み合わせた「ハイブリッド型アウトプット活動」をテーマに地域社会とのつながり、校内の発信を大切にしてきた。

また、今年度より「歴史防災教訓学シリーズ」と題し、歴史、古典の学習と防災学習を結び付けた学習活動をスタートさせた。また、歴史都市京都の文化財を最大限に活用することで、地域を愛し、地域を守る生徒の育成を目指している。地域社会の防災意識の啓発を目的に活動している。

―プランの概要

①避難所設営動画づくりにチャレンジ　②動画教材、ICTをとおした配信活動にチャレンジ
③歴史防災教訓学にチャレンジ　④その他のチャレンジ

２年生では、知識を学ぶインプット、３年生では表現、発信力を育むアウトプット活動を重視。また、縦割り活動をとおして、上級生と下級生の交流活動を重視している。

―期待される効果・ここがおすすめ！

他団体とは異なり、避難所設営動画を作成し、それを地域の自主防災会や京都府の高校生に発信することで、より有効なぼうさい普及活動の実践に努めた。また、歴史防災教訓学や避難所設営については、２年間の学びの中での指導計画を作成し、教育効果を高める工夫に取り組んだ。今年度は何より生徒の主体的活動が地域住民の方との積極的な交流の機会につなげることができた。

―成果として得たこと

- 地域住民との交流をとおして避難所設営動画を完成させ、地域、行政、京都の高校などにDVDの配布活動を行うことができた。
- 生徒のアンケート調査で歴史防災教訓学シリーズの内容をとおして、歴史学習の興味・関心はもちろん、防災意識を高める学習につながった。
- ２年生の防災ジャーナルの配信は、多くの保護者に関心を持っていただける機会になった。
- チャレンジプランの取り組みが２年生のインプット活動、３年生のアウトプット活動の大きなモチベーションにつながった。
- 学校行事などにも防災学習を取り入れることで他クラスにも積極的なぼうさい普及活動が実践できた。
- 京都という地域性を活かした防災学習の実践と、２年間の歴史防災教訓学シリーズのパッケージ化に取り組めた。

―全体の反省・感想・課題

- 地域住民との交流を継続するための工夫をどうしていくかが課題として残った。
- 来年度に向けて、防災リーダーや各種役割を設けて生徒の自己有用感をもっと高める活動につなげていきたい。
- 復興をテーマにした学習活動が本団体は不十分に感じた。

―今後の継続予定

- 地域住民の方との交流活動の継続
- 歴史防災教訓学シリーズの更なるレベルアップ
- 学校行事に積極的な防災の灯りをともしていきたい

京都の防災教育の先頭バッターとして、更なる発展を目指します！

⑥愛知県刈谷市井ヶ谷町内会体育部

プラン名
教員養成大学の学生を育てる防災教育年間プログラムの開発
―町内防災運動会をとおした「地域発」の学び―

プランの対象
大学生
地域住民

所在地
都道府県：愛知県
市町村：刈谷市

―プランの目的・ここがポイント！

町内会の行事として、1979年を第1回開催として40年にわたり開催してきた歴史ある運動会。地域の教員養成大学の学生たちを見守り、育てようという思いをもつ住民の思いから、町内会の体育部が学生とともに運動会をつくりあげ、教師をめざす学生が、将来の防災教育の担い手として求められる知識・技能を身につけ、防災運動会への参画をとおして、地域との交流体験をもつための支援を行うことを活動のねらいとしている。

―プランの概要

・学生にとって日々の大学生活の場である井ヶ谷地域を知り、地域住民と出会うための支援をする。
・町内防災運動会の取り組みを大学および学生と共有し、学生の参画により運動会を活性化するとともに、地域住民の防災意識の向上をめざす。
・実践活動を将来的に防災教育年間プログラムとして展開し、大学の授業での単位化をめざす。

―期待される効果・ここがおすすめ！

町内の指定避難所である大学との交流を深めることで、指定避難所の運営や有事の際の共助を促す知見や体験を獲得することができる。

防災教育は、地域にある潜在的な「教育の力」を形にして伝える良い機会。運動会をとおして、学生が楽しみながら地域を知り、地域住民に出会う場づくりを支援する。

―成果として得たこと

・防災運動会は昨年度と違って直前の中止判断であったため、大学との連携と準備のほとんど全ての過程を関係者で実践・共有することができた。また、代替企画として実施した大学キャンパスをコースとした新春ウォーキングは、防災を前面に出した行事として実践できた。
・コロナ禍においても、学生団体（地域サークル）と連携して活動を積み重ねることができた。その成果から、2022年度より試行的に授業の一環として学生の町内での活動を実施することになった。

―全体の反省・感想・課題

・2019年の運動会への1人の学生の参加に始まり、2021年5月に学生による大学公認サークルの立ち上げに至ったことは、学生の町内での活動を継続性のあるものにする上でも価値があった。サークルの代表学生を窓口として、日常的な地域住民とのコミュニケーションが深まってきており、平素の関係構築が有事の防災行動につながることを感じている。
・防災運動会の企画から継続して、大学生に会議等に参加してもらうことで、新春ウォーキングでは初めてICTを活用したマップの作製という新たな取り組みにチャレンジした。ネット上の地図と連携したウォーキングマップを後日回覧版で見てもらい、参加しなかった住民にも追体験できるという試みは、幅広い世代に好評であった。

第 40 回記念大会ロゴマーク

災害時の指定避難所となる体育館を見学

―今後の継続予定

・2年間中止となってきた町内防災運動会の第40回記念大会実施へ向け、町内会と学生が連携して実践に取り組む。井ケ谷町内の活動から学生が学んだことを整理し、防災教育年間プログラムとして集約する。

⑦岡山大学教育学部・酒向研究室

プラン名	ダンスを用いた防災教育「ぼうさい PiPit!ダンス」
プランの対象	子どもからお年寄りまでの地域住民
所在地	都道府県：岡山県 市町村：岡山市

―プランの目的・ここがポイント！

本プランでは以下の２つの目的で活動に取り組んでいます。
①多世代交流を通じ、地域の活性化を図るとともに災害時に必要な共助の精神を育むこと

②防災に関心のない人たちに対し、防災へのイメージを肯定的に変容させるきっかけになること

―プランの概要

本プランは、①地域における共助の促進、②防災活動のイメージ向上を目指した取り組みです。具体的には、キャラクターを活用したイメージ戦略（例：熊本県のくまモン）として、ダンスを用いた防災教育教材の開発と普及啓発活動を行なっています。

―期待される効果・ここがおすすめ！

キャラクターを活用したイメージ戦略によって、子どもたちの意欲関心を引き出し、防災を学ぶきっかけとなっています。子どもからお年寄りまでの各世代に応じたダンスを作成しており、世代交流が行える内容となっています。

―成果として得たこと

コロナ禍において対面での実施に加え、今回新たな試みとして、対話を含んだ双方向型オンライン形式で実施しました。また学校現場においては保育園から大学までの各学校機関で活動を実施することができ、防災ダンスに対し各世代の子どもたちの表情や反応を得ることができました。今後普及啓発を行うにあたって対象者に適した実践方法で行いたいと思います。

―全体の反省・感想・課題

・防災に関するコンテンツの開発し、それを用いた防災教育活動を岡山市内で行っています。今年度はコロナウイルスの影響もあり、なかなか対面で実施することが困難だったため、コロナが収束した際に積極的に学校現場や地域のイベントに参加することを検討しています。
・今年度新たに映像コンテンツの作成や指導書やリーフレットなどを制作しましたが、実際に地域に配布し、それを用いた防災教育活動を行えていません。今後は継続的にそれらを用いて普及啓発を行い、コンテンツの効果等を検討していきます。

―今後の継続予定

・今年度制作した防災教育コンテンツを用い、地域においてより幅広く活動を展開する共に、それらのコンテンツの効果等も検証していきたいと思います。
・また、地域に普及するにあたって、学外の指導者を育むことも検討しています。

⑧減災 Days

プラン名　幼児からスタートする切れ目ない防災教育
～日常コミュニティがいのちを守る～

プランの対象　保育園・幼稚園の部～小学校の部

所在地　都道府県：山形県
市町村：山形市

―プランの目的・ここがポイント！

プランの目的は「自分たちの未来を、自分たちで選択し、社会に関わる「視点・生きる力」を防災教育を通じ身につけること」です。発達の段階に添いアクティブラーニング型の学修者の主体的で能動的な資質能力を育成します。防災・減災教育として、子どもたちが元々持つ知識・技能と防災・減災の新しい知識を結びつけ、多様なアプローチで思考・判断し、表現する場を設けます。理解していること、経験したこと、今できることを見つめ、これからどの様に自分の社会を拡げ、社会と関わり、より良い生き方を探求できるか、家族・学校・校外の人材などとの関わりを通じ、いのちを守ることに加え、自らを取り巻く人・町・社会への愛着や興味を育み、防災・減災に欠かせない非認知能力を育みます。

―プランの概要

・教師と協働し教科指導で得た知識・経験の定着に防災・減災の知識を結びつける。
・身の回りで起こった災害やハザードマップを自分事として捉える。
・デジタルとアナログの手法を共に活かし、学びを深める。
・学びを共有し、安心して表現できる環境を作ることや表現力を身につける。

―期待される効果・ここがおすすめ！

・子どもたちが自らのいのちを守り、社会の一員として出来ることを考える力を養う。
・子どもたちの表現（行動）を通じて家庭・地域・学校の防災力を上げることができる。

―成果として得たこと

この度の防災教育チャレンジプランをきっかけに、中山町では町内の教育機関・行政・防災教育チャレンジプラン採択者を含む防災教育協議会を発足。また今年度（令和３年度）からスタートした町の総合計画に防災教育を打ち出し、幼児期からの切れ目ない防災教育を盛り込むこととなったことは、単発的な防災教育とは異なり、継続して子どもたちの防災力育成に携わることができる環境が整ったこととなった。

単に知識提供・体験提供型の防災教育としてではなく、まちづくり、人づくりとしての防災・減災教育を、現場の先生方と協働して教科連動型の授業として実施することで、現場の先生方の防災意識を高めることが出来た。また教科連動となることで子どもたちの学びへの興味を大きく引き出すことが出来た。

子どもたちの学びを通じて、家庭防災力へのアプローチができ、保護者の防災意識を高める結果が得られた。今後は展示や発表などを通じて地域（町内）への防災意識向上の連鎖が起きる様、計画している。

―全体の反省・感想・課題

動画作成を求められることから、記録については大量のデータの蓄積となったが研究・検証には役立つが、費用負担や作業量が増えることを前提にスケジュールを組む必要があると感じた（コロナ禍で学校の行事や授業等も年度後半にずれる中、実施が当初より後送りになったことも要因のひとつだった）。

―今後の継続予定

中山町では実施した防災教育を受けた子どもたちへの継続的な防災教育の実施と検証を続けていく。

⑨千葉県立銚子高等学校

プラン名	県銚ぼうさい探究！		
プランの対象	生徒	所在地	都道府県：千葉県 市町村：銚子市

―プランの目的・ここがポイント！

学校設定教科「防災の学び」を柱に、防災教育の内容を教科等横断的な視点で組み立て、地域に根差した探究活動を実践し、自助・共助の防災意識を高める。

銚子ジオパーク推進協議会と連携し、作製した積層図の範囲を歩き、どのような場所が危険なのか考えるジオツアーや災害履歴・偉人、津波の行動科学、災害医療、地層・化石、産業・醤油等についての専門家による特別授業や探究活動の成果を発表する県銚アカデミア等が特徴である。

―プランの概要

- 災害時におけるメディアとの向き合い方、心理学、歴史について学ぶ。
- 銚子及び東北３地域の積層図を作製し、災害に対するリスクや、約１０年間の復興状況を調べる。
- 個人及びグループで課題探究型学習に取り組む。
- ジオツアーを実施し、銚子の過去の災害の痕跡や復興の歴史を学ぶ。
- 津波想定の避難訓練や避難所運営について学び、災害時の行動計画や自助・共助について考える。
- 探究活動の成果発表会として、県銚アカデミアを開催し、校内及び地域住民と成果を共有する。

―期待される効果・ここがおすすめ！

メディアとの向き合い方や、心理学、災害の歴史を学ぶことで、適切な状況判断や災害への備えができるようになる。探究活動の成果を共有することにより、グループごとの視点やテーマの違いから、幅広い知識を得ることができ、防災への意識向上につながる。

―成果として得たこと

- 銚子及び東北３地域の積層図を作製した。地元である銚子の地形を理解し、災害発生時の地域ごとのリスクや避難計画について考えることができた。また、東日本大震災当時の被災状況から現在までの復興状況、ハザードマップを調べたことにより、災害が発生した後の復興まで見据えた事前の防災対策の重要性を認識した。
- ジオツアーを実施し、地元銚子の津波をはじめとする過去の自然災害や戦災の痕跡を巡り、復興前後の都市の変化から、次の災害に備える工夫が盛り込まれていることに気づいた。３方を海や利根川に囲まれていることから、津波をはじめとする水害等に繰り返し罹災している歴史がある。しかし、豊富な環境資源（水産業など）があることから、リスクとの共存を意識した先人たちの工夫を学び、防災意識を向上させた。
- 課題探究型学習に取り組み、成果を共有したことで、視点の異なる様々な角度から防災について学び、理解を深めることができた。考えるポイントがたくさんあることに気づき、今後、継続して防災について意識し、学び続けることの重要性を認識した。

―全体の反省・感想・課題

ジオツアーを中心に実際に見たり、感じたりと体験的に学ぶ中で、知識を身に付け、考えることに喜びを感じていた。普段何気なく過ごしている地元にも、多くの発見があることを知り、自ら考えることの大切さに気づいた生徒が多かった。

―今後の継続予定

小中学生や地域住民へのプレゼンテーション、避難場所設置体験などを、オンライン等を活用して実施し、本校生徒の学びの充実及び発信力の向上を図っていく。

⑩信州大学防災フォトロゲイニング実行委員会

プラン名	地域でつくる防災フォトロゲイニング
プランの対象	高校生～大学・一般
所在地	都道府県：長野県 市町村：長野市

―プランの目的・ここがポイント！

地域住民と高校生が協働で作成した防災マップをもとに、防災フォトロゲイニング大会の企画・運営を行い、参加者の防災意識向上、新たな地域防災活動の取り組みの獲得を目指す。

防災マップ作成に高校生が参加することにより、若年層の防災意識を醸成し、地域防災の担い手の裾野を広げていく。

―プランの概要

防災フォトロゲイニングのマップ作成にあたり、既存の観光や防災に関する地図を収集し、その利点と欠点について各自発表。

観光と防災についての共通認識の構築をはかるために、学校周辺を活用し、観光ポイントして活用できそうなものを全員で現地にて検討を行っった。別日に災害・防災の共通認識をはかるために、実際の災害現場を、当時災害対応を行った伊那市役所の方に案内してもらい、被害の実際について意識してもらった。

その後高遠町においてグループごとでフィールドワークを行い、各グループより観光防災マップのアイデアについて発表を行った。

―期待される効果・ここがおすすめ！

観光、防災に関するフィールドワークを２回行い、共通認識を得たあとに高遠町での防災マップの作成を行った。これにより、観光・防災に対する共通認識を得ることができた。

―成果として得たこと

防災マップ作成にあたり、観光、防災双方のフィールドワークを実施出来たことが、地域防災を意識してもらう上で、非常に有効であった。日常生活から防災を意識する方法として、観光や景観と連携して考えることも可能であることを知ってもらうきっかけとなった。

―全体の反省・感想・課題

当初、防災フォトロゲイニング大会の開催まで進めることを目的としていたが、諸般の事情により開催できなかったことが、実行委員会や学生のモチベーションに影響してしまった面が大きかった。今後はこの点をいかにして克服していくかが、今後の課題となるだろう。

―今後の継続予定

本年度に作成された防災マップを来年度に活かしつつ、地域住民の視点を更に加えてバージョンアップを行って行く。そして作成した地図の活用を広く行うため、これまでに繋がりの薄かった組織と連携しながらプランを進めていきたい。

⑪倉敷市教育委員会

プラン名　「わがこと意識」をもつための倉敷型防災教育
～中学生が家庭や地域の力となることを目指して～

プランの対象　中学生

所在地　都道府県：岡山県
市町村：倉敷市

―プランの目的・ここがポイント！

本市では，教育委員会が作成したカリキュラムをもとに、２０２０年度から市立小学校３・５年生において「総合的な学習の時間」における授業としての防災教育を新しく始めている。そこで，小学校での学習だけで終わることのないよう，防災に関する知識や実践力，防災意識を継続させていくために，中学校の防災教育カリキュラムを新たに作成し、中学生への防災教育を行うことをねらいとしている。

小学校からの系統性を踏まえながら，中学生という発達段階を考慮し，生徒が自主的・主体的に活動できるような内容や，家庭や地域をつなぐことができるような内容を組み込んだ学習指導案を作成し，モデル校を設定して様々な形で実践した。

―プランの概要

① 「知識」「体験活動」「発信」等、様々な内容・活動を組み込んだカリキュラム案を作成。
② モデル校での授業実践。
（「自助・共助」の学習，被災地を巡る現地学習会，被災者による講演会，防災食体験活動）
③ モデル校での実践を踏まえたカリキュラムの再構築。

―期待される効果・ここがおすすめ！

・防災教育の授業による生徒の防災に関する実践力の向上，防災意識の継続および高揚を図る。
・中学生から家庭や地域への発信による地域全体の防災力の向上，防災意識の高揚を図る。
・中学生の地域での自主的・主体的な活動への意欲向上を図り，将来の防災の担い手を育成する。

―成果として得たこと

① モデル校での授業や体験活動等の実践を通じて、中学校への防災教育カリキュラムの構想が明確になり、カリキュラム作成の見通しをもつことができた。
② 授業として防災について学習したり体験活動を行ったりすることで中学生の防災に関する知識や実践力が身に付き、災害を自分事として捉え、「わがこと意識」の向上を図ることができた。
③ 市の防災部局や関係機関、被災した真備町で復興活動に取り組む地元の方々等、連携・協力をすることができた。

―全体の反省・感想・課題

実践を重ねる毎に、生徒が新たな知識を獲得・活用し、防災について真剣に向き合う姿が見られた。授業としての時間を確保し学ぶことは着実に生徒の力となり、「わがこと意識」の向上につながると感じ、学びの継続の必要性を改めて感じた。その一方で、受け身的な学習が中心となってしまい、生徒自身が考えたり、行動したりする自主的・主体的な学習がなかなかできなかった。また、新型コロナウイルスの影響でモデル校での実践が予定通り進まず、学習のまとめや生徒からの家庭や地域への発信・連携の取組が期間内にできなかった。

―今後の継続予定

モデル校での学習のまとめ、家庭や地域への発信・連携の取組を行っていく。それを踏まえ、小学校からの系統性・継続性を考慮しながら、中学校の防災教育カリキュラムをよりよいものに再構築し、全市立中学校での防災教育を新たに始めていく。

⑫京都市立塔南高等学校

プラン名　地域と連携して活動する防災ボランティアリーダーの育成

プランの対象　本校生徒および地域住民

所在地　都道府県：京都府　市町村：京都市

―プランの目的・ここがポイント！

本校を地域防災の拠点にするため、防災の知識を持ち、自ら考え、判断でき、主体性を持って本校と本校周辺地域の防災に寄与することができる生徒を、取り組みの中で育てて行く。生徒を育てるのがゴールではなく、育てた生徒が自主的に地域防災に取り組むことができるシステム、下地作りがゴールである。

―プランの概要

本校高校生より有志を募り、防災に関わる様々な研修、体験、交流を通して、防災に関する知見を深め、主体性を持って本校の防災教育の主軸を担っていくだけでなく、地域の住民、児童に対しても防災の重要性を発信し、協働して防災活動に当たれる人材の育成をはかる。生徒の主体性を高めつつ、生徒の意見をもとに防災活動を行っていく下地を作っていく。

―期待される効果・ここがおすすめ！

本校はここ数年で一から防災に取り組み始めた学校である。防災活動を通して、生徒の主体性を育てる仕組みを作り、ひいては防災を通じて、地域とつながる学校作りにつながる取り組みである。

―成果として得たこと

本校が防災に真剣に取り組もうと動き出したのは２０１９年からである。全くの一からのスタートであったため、生徒だけでなく教員までもが「防災とはどういうことか」を理解するところから始めなければならなかった。そのため防災教育チャレンジプランの先生方と、龍谷大学石原ゼミの石原先生およびゼミ生のみなさんの知見は非常にありがたかった。なんとかこの一年で生徒は少しずつ知識を増やし、思考力・判断力を養い、主体性を高めることができた。来年度からはより主体性を高め、より生徒主体の取り組みにしていけるよう、心がけて行きたい。

―全体の反省・感想・課題

コロナの状況もあり、「企画させ、実践させる」という部分の主体性はなかなか高められなかった。また、文化祭が縮小されたこともあり、他の生徒に還元する場をなかなか作ることができなかった。来年度以降、取り組みをより生徒が立案し、行っていけるような人材の育成と環境の整備に努めたい。具体的には、大学、高校、地域とよりつながり、お互いに話し合いながら作っていく取り組みを模索したい。

―今後の継続予定

しばらくは生徒の主体性を高め、自主的に防災に関われる人材を育てることが目標であるが、その生徒が後輩達を育てることで、教職員が何もしなくても自分たちで防災について主体的に学んでいく人材を作っていく、そういったシステム作りが最終目標である。災害を「我が事」だととらえ、「継承していく主体性」を持った組織作りを、少しずつ行っていきたい。

防災教育チャレンジプランに期待する

防災教育チャレンジプランが 2004 年に今の形になって 18 回目のチャレンジになります。これまで 330 近い優良な活動を支援させていただきました。そして、2015 年にはそれまでの成果を踏まえ、防災教育をしたいと思う人が、どう準備し、どう実行し、どう継続するかのノウハウをまとめた「地域における防災教育の実践に関する手引き」を公開しました。同時に防災教育に関わるさまざまな団体と共同して防災教育普及協会も設立できました。最初の 10 年は防災教育を普及させる 10 年と位置づけています。そして 2014 年からの 10 年は東日本大震災からの復興の教訓も加味しながら防災教育を体系化する 10 年にしたいと思って活動しています。

防災教育チャレンジプランの成果は、毎年頻発する風水害や、21 世紀前半に発生が確実視されている南海トラフ地震や首都直下地震のような巨大な地震災害を乗り切る上での大きな資産です。こうした災害に立ち向かう主役は若い人たちです。若い人たちが、自分自身を守り、お互いに助け合い、災害を乗り越えていける力を育んでおくことが、この国の将来にとって不可欠です。これは学校だけの仕事ではなく、学校・地域・家庭が協力してさまざまな試みを重ねていくことが大切です。

今年度のチャレンジプランには、長引くコロナ禍にもかかわらず 26 団体の応募をいただきました。どれも素晴らしい内容でしたが、予算の制約があり、今回はその中から 12 団体のプランを選ばせていただきました。防災教育の内容をできるだけ多様にするプラン、いろいろな場所でできるだけ幅広い層が関われるプランへと成長してほしい「たね」を重点的に選ばせていただきました。選ばれた各団体はいろいろな面で「チャレンジ」し、今後の防災教育を推進する上での共通の資産を増やすために努力をしてください。

今回選ばれた皆さんのプランが今日をスタートとして、1 年間の実践を経て大きな実を結び、来年 2 月の活動報告会に成長した姿で戻ってきてくださることを期待してやみません。

防災教育チャレンジプラン実行委員長
国立研究開発法人　防災科学技術研究所　理事長
林　　春　男

我が国は、地震、台風、豪雨、火山噴火など様々な災害に見舞われやすい国土にあります。2011 年の東日本大震災や 2016 年の熊本地震などの地震災害をはじめ、2018 年の西日本豪雨、球磨川が決壊した 2020 年 7 月豪雨など、近年は毎年のように豪雨災害もあり、自然災害は各地で頻発化、激甚化しています。

このように、我が国を絶え間なく襲う災害から、皆さんが命を守り抜き、被害を最小限に抑えていくためには、災害への備えが欠かせません。行政による「公助」はもとより、一人ひとりが自分の身は自分で守る「自助」、地域で助け合う「共助」、そしてこれらを組み合わせることが災害に強い社会や地域を作っていく上で大切なことです。

さて、昨年は災害対策基本法が改正されました。例えば、これまで避難勧告と避難指示の２種類があり分かりにくかった避難情報が、避難指示に一本化されることで分かりやすくなり、迅速な避難行動に繋がるようになりました。

しかしながら、こうした法改正などの制度改革がなされたからといって、すぐに防災力が高まるわけではありません。私たち一人ひとりがしっかりとその内容を理解するだけでなく、それぞれの地域に合わせた備えを行ってこそ、社会や地域の防災力の向上に繋がります。そういった意味でも、常日頃から災害としっかり向き合い、地域や学校で防災・減災の実践的な防災教育を行っていくことがとても大切です。

おかげさまで、この防災教育チャレンジプランは、多くの関係者のご支援により今年で 18 回目を迎えることになりました。実践団体に選ばれた 12 団体の皆さんには、地域の防災活動の主体者としてそれぞれの防災教育にぜひチャレンジしていただき、地域防災力の向上に寄与されることを心よりご期待申し上げます。

防災教育チャレンジプラン実行委員
内閣府政策統括官（防災担当）付 参事官（普及啓発・連携担当）
村 上 威 夫

2022 年度実践団体の紹介

2022 年度防災教育チャレンジプラン　実践団体

【1】愛知県立ひいらぎ特別支援学校

プラン名　防災学習で学ぶ「命の守り方」　～自分で・学校で・地域で～

応募部門　小学校の部～高等学校の部

所在地　愛知県半田市

☆☆☆

―目的・特徴等

三つのキーワードをもとに取り組む。一つ目は「自分で守る」。障害のある児童生徒が、災害時に自分で自分の心や体の安全を守るスキルを学ぶ取組。二つ目は「学校で守る」。在校児童生徒の支援、避難体制など校内の「防災マニュアル」の見直しや研修、訓練に取り組んでいきたい。そして三つ目の取組は「地域で守る」。本校は、所在地域の「福祉避難所」として指定されている。地域の災害対策課との連携を深め、災害時の「備え」を作っていきたい。

―団体紹介

愛知県知多半島を校区とする肢体不自由児のための特別支援学校である。全校生徒は小・中・高等部あわせて約 90 名。学校生活において、医療的なケアが必要な児童生徒や日常生活に介助を要する児童生徒が在籍している。開校以来、約 20 年間、幸いなことに大きな災害を経験していないが、所在地域は「南海トラフ大地震」の対象地域に含まれている。重度の障害がある児童生徒が「安心・安全」に地域社会で暮らしていけるように、「防災学習」のより一層の充実をはかっていく。

【2】静岡県立駿河総合高等学校

プラン名　地域防災コミュニティプロジェクト学習　～持続可能にむけて～

応募部門　高等学校の部

所在地　静岡県静岡市駿河区

☆☆☆

―目的・特徴等

静岡県は、大きな地震が発生すると言われており、また学校近隣では水災害や土砂災害が起こっている。そんな中、高校生が地域にできることを主体的に行うことで、地域に貢献することを目的とする。

実際に防災・減災活動をするために、専門的な知識を大学教授や行政職員、専門家より学び、いざという時に行動できる人材育成を目指す。同時に、高校生が地域住民やこども園、外国人、障がい者施設の方々と交流を深めることで、地域コミュニティの輪を広げることも狙いとしている。

―団体紹介

静岡県駿河湾に面した駿河区唯一の公立高校で、2013 年に静岡県立静岡南高等学校と静岡市立商業高等学校が合併し、総合学科高校として現在の静岡県立駿河総合高等学校となる。校内には静岡県立静岡北特別支援学校南の丘分校があり、共生教育を行っている。人文社会、自然科学、ビジネス総合、デザイン、生活文化、ものづくり総合の 6 系列があり、多種多様な学びができる。総合的な探究の時間では、探究サイクルを自らまわし、「これからの社会で必要となる力」を 3 年間通じて身につけるカリキュラム構成としている。

【3】江戸川区立一之江小学校

プラン名　備えよう、まさかのために！　作ろう、一之江防災プラン！

応募部門　小学校の部　　**所在地**　東京都江戸川区

☆☆☆

―目的・特徴等

１．「まさか」の状況にすぐに対応できる具体的な「指針」（ペーパーベース）と、「行動」（活動ベース）をセットにした「一之江防災プラン」を作成する

２．荒川及び中川に挟まれた立地から、台風や大雨、津波等による河川の氾濫が想定されるため、学校（児童・教員）と保護者・地域・行政が連携して防災意識を高める取組を進めていく。

―団体紹介

東京都江戸川区に立地する本校は、０メートル地帯に位置し、荒川と中川に挟まれ氾濫が想定される地域でもあります。防災チャレンジプランの取組みを通して、学校と地域が一体となった防災対策を構築することを目的として応募をしました。現在は、コロナの影響もあり、区や地域との連連携がなかなか進まない状況ですので、「一之江小防災プラン」を実際を想定して作成していきたいと考えています。

【4】2011team 釜石小ぼうさい

プラン名　災害伝承　2011 team 釜石小の軌跡　『このたねとばそ』

応募部門　大学・一般の部　　**所在地**　岩手県盛岡市

☆☆☆

―目的・特徴等

2011 年の東日本大震災発災時に、下校後で学校管理下外にいた釜石小学校の子ども達は一人一人の判断で全員が大津波から自分の命を守りぬきました。

震災から１０年が経過し、風化が進む中、改めて震災伝承と学校教育の大切さを感じています。

本プランでは、大人になったあの時の子ども達の証言や提言、原点である釜石小学校の防災教育の考え方を本としてまとめ、「たね」として、全国、未来へ飛ばし、新たな防災意識の向上を目指します。

―団体紹介

『2011team 釜石小ぼうさい』は、東日本大震災前の釜石小学校防災教育に取り組んだ教員有志と、今は大人になっている大津波を生きぬいた子ども有志で活動をしています。2020 年度からは北九州市防災・減災教育推進シンポジウムにシンポジストとして参加し、防災の取組を伝えてきました。

2022 年度は、これまでのことを本『このたねとばそ』としてまとめ、震災及び防災教育の伝承発信をします。また、当時の小学生（現在大人）と現在の小学生との活動や、学校との連携を通し、地域の防災文化の礎となることを目指し、取り組んでまいります。

【5】見てみようよ！常総市の会

プラン名　オープンストリートマップでつくる水害６年目の常総市地図

応募部門　高等学校の部
大学・一般の部

所在地　茨城県常総市　☆☆☆

―目的・特徴等

平成27年関東東北豪雨災害から6年となる常総市において、水害記憶の次世代継承のため、web上の無料プラットフォーム「オープンストリートマップ」を活用した「発見街歩き地図作りイベント」とその後のweb上マップへの随時書き込み可能化により、取組参加者増大と継続を、観光振興と抱き合わせたかたちで推進する。

―団体紹介

当会は、平成 27 年関東東北豪雨で鬼怒川堤防が破堤、市内中心部が大洪水に見舞われた茨城県常総市において、水害の記憶を消し去る復興ではなく、水害記憶を継承しながらの復興を望む市民活動団体として設立。市内の各地（許可を得た場所）に当時の高水位の高さを示すステッカーを貼る参加型スタディツアー「ステッカーツアー」を実施し、過去に当該チャレンジプランからも２箇年度支援いただいた。支援が終了した後も、中心地・水海道や２本の一級河川（鬼怒川・小貝川）を舞台にしたガイドウォークやカヌー体験を加えた水害継承イベントを実施してきている。

【6】犬山市立楽田小学校

プラン名　Let’s　プロテクト　犬山　＝災害に強い街づくり＝

応募部門　小学校の部

所在地　愛知県犬山市　☆☆☆

―目的・特徴等

本校で防災教育の実践が始まって３年目となる。ハザードマップで示されている危険地域が校区内にいくつもあるが、以前は災害を身近に意識している児童は少なかった。自然災害を学ぶためのカリキュラムマネジメントを行ってきたことで、少しずつ防災に対する意識が芽生えてきたと感じている。本実践はこれまでの取り組みを活かして、「持続可能なカリキュラム」として本校に定着するための「システムの構築」を目的としている。

―団体紹介

本校は、児童数 500 人程の中規模校である。犬山市の南東部に位置するが、古墳時代より拓けた場所に位置する。地形的には木曽川の扇状地と東部の山地の縁にあり、それぞれの特徴が校区内に散見できる。近くには、国内最大級の溜池「入鹿池」や「木津用水」「愛知用水」などの灌漑用水が張り巡らされており、大地を潤ってきた。だが、太古の時代より沈降を続ける濃尾平野において災害は身近な問題であった。木曽川の氾濫、濃尾地震、入鹿切れ、はげ山からの土石流の発生など。本地区は、このような防災・減災と戦い続けた地域である。

【7】減災 Days

プラン名　幼児からスタートする切れ目ない防災教育

応募部門　保育園・幼稚園の部～小学校の部

所在地　山形県山形市

☆☆☆

―目的・特徴等

フィールドの山形県中山町は町内の殆どにハザードが想定される町です。中学生には防災を軸とした教科横断的な総合学習（避難所運営訓練等）が取り組まれていますが、今回のプランでは幼小においても発達の段階に合わせた「切れ目ない防災教育」を作り出し、自分自身が社会の一員であるという視点に気づき、主体的に防災に取り組むキーパーソンになれる様、防災の知識・体験を活かし、自らの行動を導く為の「こころ」を育みます。

―団体紹介

防災・減災活動はいのちを守った先の未来の笑顔の為にあるということを信念に、防災・減災を手段に人づくり・まちづくりに関わる活動を行っています。防災に関する講座やＷＳ、体験型イベントの他、SGDs の視点、男女共同参画の視点、社会福祉の視点を防災・減災と結び、地域や行政、市民を繋ぐ活動を通して、防災・減災を日常化し、より良い未来の為のコミュニティづくりを支援しています。

【8】東京都立調布特別支援学校

プラン名　コロナ禍における持続的に発展可能な福祉避難所開設計画

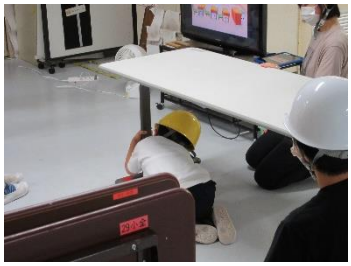
応募部門　小学校の部～中学校の部

所在地　東京都調布市

☆☆☆

―目的・特徴等

地域のニーズに応える速やかな福祉避難所開設の仕組みづくりを目指します。本校、行政、大学、地域住民が避難所開設という共通の目的で連携し、協議や訓練を重ねて災害時の実践的な対応力を磨き、「避難所開設マニュアル」を作成します。入口をリモートで開錠・施錠する仕組みの導入や、特別支援教育のノウハウを生かした空間の快適化など、コロナ禍の避難所開設の最適な仕組みを探ります。



―団体紹介

本校は知的障害のある児童・生徒のための学校で、小学部と中学部合わせて 170 名近くが学んでいます。調布駅に程近い場所にあり、「『地域』に生き、ともに伸びる学校」というスローガンを掲げ、共生社会の実現に向けて特別支援教育の充実を図っています。通学区域は調布市・三鷹市・狛江市で、多摩川や野川などの流れる緑豊かな環境にあります。地域との連携に力を入れており、調布市、近隣の小学校と大学、隣接するマンションとの間に、それぞれ防災協定を結んでいます。地域住民による支援組織もあり、行事や訓練などで協力を仰いでいます。

【9】愛知工業大学名電高等学校

プラン名　名電チャレンジ ～減らして防ぐ災害マニュアル～

応募部門　高等学校の部　　**所在地**　愛知県名古屋市千種区　☆☆☆

―目的・特徴等

1人でも多くの人に「防災に対する意識を高めてもらいたい」という願いを実現するため、3つの項目に分けて取り組んでいきます。

・避難訓練を活かした避難ルートの見直しと改善、校舎の安全性の検証
・ガラスを基調とした校舎であるため、災害発生時、ガラスの危険箇所を知らせることができる「危険箇所周知システム」の開発
・地域や大学生との交流を深め、避難訓練や広報の活動の活性化

―団体紹介

愛知工業大学名電高等学校は大正元年に創立し、令和4年に110周年を迎えます。現在の校舎は平成24年に建てられたもので、ガラスを多用した明るく近代的な校舎です。

しかし、災害時にはガラスによる被害の可能性が高いため、愛知工業大学の教授や本校舎を手がけた設計者の方々から災害の知識や建物の安全性を学び、検証しています。また、企業のサッシ会社と危険箇所周知システムの開発や、大学生、地域の方々と交流を深めながら、より防災力を高める対策を講じていく予定です。

多くの方々と協力していきながら、より良いものを作っていきます。

【10】愛知県刈谷市井ケ谷町内会体育部

プラン名　教員養成大学の学生を育てる防災教育年間プログラムの開発
―町内防災運動会をとおした「地域発」の学び―

応募部門　大学・一般の部　　**所在地**　愛知県刈谷市　☆☆☆

―目的・特徴等

プランの目的は、地域の指定避難所である教員養成大学の学生が、町内防災運動会への参加をとおして、防災教育の担い手としての知識・技能を身につけ、地域住民との交流体験を深める支援を行うことです。従前の防災運動会の競技を見直し、新設の競技を学生と協働で開発・実践し、活動を防災教育の年間プログラムとして展開することで、地域住民・学生双方の防災意識の向上を目指します。実践3年目となる今年は、2年間中止となっている町内運動会の実現と、大学の授業単位としての位置づけをとおした活動の継続を目指します。

―団体紹介

井ヶ谷町内会は刈谷市内でも特に地域活動が盛んな自治会で、体育部は町内会の有志によって組織された約25名の団体です。町内の行事の中で体育部が中心となって運営する最も大きな行事が防災運動会で、1979年を第1回とする40年以上の歴史があります。町内の大学の学生とは今でこそ日常的な交流が少ないものの、以前は学生向けの下宿も多く、「学生を町内で見守る」という意識が地域で醸成されてきた経緯があります。町内に潜在的にある「教育の力」を活かし、学生生活の場であり防災を学ぶ場としての地域住民が、防災運動会の運営・実施をとおして、学生を「育てる」ことにチャレンジします。

【11】信州大学観光防災マップ活用グループ

プラン名　地域でつくる観光防災マップ

応募部門　高等学校の部～大学・一般の部

所在地　長野県長野市

☆☆☆

一目的・特徴等

防災の重要性は総じて社会全体に浸透していますが、今以上の向上を図るには日常生活に取り入れることが大切です。

本プランでは、これまで作成されてきた様々な観光マップをベースとして、地域住民と高校生が協働で調査した防災に関わる情報をプラスし、観光防災マップの作成を行います。作成したマップについては防災イベント等の運用に利用し、参加者や関係者の防災意識向上、新たな地域防災活動の取り組みの端緒の獲得を目指します。

一団体紹介

地域防災の普及を目指し、信州大学、伊那市役所、伊那市有線放送農業協同組合、上伊那広域消防本部の有志で立ち上げた団体です。設立前から地域防災に関わる活動に積極的に関わってきたメンバーが、伊那弥生ケ丘高等学校、伊那北高等学校の総合学習に関わることになり、新たな地域防災の仕組みづくりのため活動を開始しました。

今後は様々な方の協力を得ながら目的の実現を目指していきます。また、本プランを通じて得た知見を地域の方にいかにわかりやすく伝えるか等課題もありますが、メンバー一同全力で取り組んでいきます。

【12】文京 de BOSAI

プラン名　文京★こども防災スタンダードプロジェクト

応募部門　小学校低学年の部　高等学校の部～大学・一般の部

所在地　東京都文京区

☆☆☆

一目的・特徴等

本プランでは、 こどもたちが、自助の重要性と必要性を普及する担い手となるような枠組み「文京★こども防災スタンダード」を構築します。この狙いは、

1） こどもの自助力（生きのびる知恵）の獲得と向上。
2） こどもの自助力向上を通じた保護者（地域住民）の自助の芽生えと自助力の向上。
3） 地域住民の自助力、ならびに地域の耐力の獲得と強化（共助力の芽生え）。

です。 地域のこどもたちの自助概念の涵養と、その保護者（地域住民）の防災意識の革新により地域の防災力向上を目指します。

一団体紹介

本プランには、多種多様な分野で活動する多彩な人材や団体が参画しています―文京区の町会の防災活動に長らく携わってきた町のリーダー、地区防災計画を立てたリーダー、ご近所の繋がり強化のための活動を推進する団体（ご近所 de BOSAI®）、行政との連携の下、災害時に備えてきているアマチュア無線連絡会の主要メンバー、文京区防災課、消防署、小学校 PTA、最新の研究を考慮して災害リスクを説明してきている研究者など―。

これらの連携を強化することに加え、本プランに賛同し参画していただける人材や団体募集を継続し、より多彩な団体への成長を目指しています！

2021 年度 審査委員の紹介

委員長	渡邉　正樹	東京学芸大学教職大学院　教授
委　員	安藤　雄太	東京ボランティア・市民活動センター　アドバイザー
委　員	安藤　慶明	国立研究開発法人防災科学技術研究所 理事
委　員	池内　幸司	東京大学大学院工学系研究科　教授
委　員	内田　欽也	内閣府大臣官房審議官（防災担当）
委　員	小正　和彦	全国連合小学校長会 庶務部長／横浜市立みなとみらい本町小学校　校長
委　員	佐竹　健治	東京大学 地震研究所 所長・教授
委　員	重川　希志依	常葉大学大学院環境防災研究科　教授
委　員	嶋倉　泰造	東京海上ディーアール株式会社　代表取締役社長
委　員	戸田　芳雄	学校安全教育研究所 顧問／日本安全教育学会　理事長
委　員	柱　　匠	日本電信電話株式会社技術企画部門　災害対策室　室長
委　員	林　　春男	国立研究開発法人防災科学技術研究所　理事長
委　員	福島　隆史	株式会社 TBS テレビ報道局社会部兼解説・専門記者室　解説委員
委　員	山﨑　登	国士舘大学防災・救急救助総合研究所　教授
委　員	山本　竜太郎	東京電力ホールディングス株式会社　常務執行役
委　員	米田　徹	日本ジオパークネットワーク 理事長／新潟県 糸魚川市長
委　員	米村　康	東京ガス株式会社　防災・供給部　防災・供給部長

（2022 年 1 月 31 日現在、50 音順、敬称略）

防災教育チャレンジプラン募集の御案内

1. 募集の概要

防災教育チャレンジプランでは、全国で取り組まれつつある防災教育の場の拡大や質の向上に役立つ共通の資産をつくることを目的に、新しいチャレンジをサポートいたします。

そのプランの準備・実践に当たって発生する経費を支援し、実現に向けた防災教育チャレンジプランアドバイザーによる対面またはオンラインでのアドバイスや相談などの支援を行います。

応募の中から選ばれたプランは、活動計画について前年度の活動報告会で発表、さらに実践した内容について、交流フォーラム（中間報告会）と活動報告会で発表していただきます。

活動報告会においては、優秀な実践活動に対して防災教育大賞・防災教育優秀賞・防災教育特別賞を授与いたします。

これからの時代の防災教育として、オンラインやオンデマンドを活用した活動など、様々なチャレンジをサポートし、その成果はホームページなどで幅広く公開します。

2021 年度の防災教育チャレンジプランでは、新型コロナ禍を新たな「まなびのきっかけ」とするチャレンジを積極的に募集いたしました。内容としての新型コロナ禍を選ぶだけでなく、新型コロナ禍がきっかけとして生まれた「まなびのスタイル」を活用したオンライン型やオンデマンド型のチャレンジも歓迎です。

みなさんのチャレンジをお待ちしています。

サポート内容	■プランの実践にかかる経費の提供／上限 30 万円（査定による） ※活動・予算計画書の提出及び団体名義の口座が必要となります。 ■交流フォーラム（中間報告会）・活動報告会発表者への交通・宿泊費の支給。（1名分×3回分） ※社会情勢等によりオンライン開催となった場合はタブレット、wifi ルーター等の機材を貸与します。 ■プランの実現に向けて、下記サポート主体が対面・オンライン問わず 助言や現地指導等の支援を行います。 ■防災活動の手法・事例の収集と活動情報の発信ができる各種 web ツールを提供します。
サポート主体	■防災教育チャレンジプランアドバイザー ・防災教育チャレンジプラン実行委員 ・防災科学技術研究所研究員 ・サポーター（過去の実践団体） ・その他防災教育専門家等 ■防災教育チャレンジプラン実行委員会事務局
表彰	■活動プロセス及び成果に対して審査を行い、優秀な実践活動に対して、防災教育大賞・防災教育優秀賞・防災教育特別賞を決定し、 表彰状と盾を授与いたします。 ■防災教育チャレンジプラン「サポーター」として認定いたします。

2. 応募資格

- 防災教育を一層充実させたいと考えている教育・社会福祉施設（保育施設・幼稚園・学校等）、教育委員会、NPO、民間企業、個人、地域団体(民間事業所、各種団体、行政機関)
- 採用された場合は、開催予定の実践団体決定会、中間報告会、活動報告会の計3回の会合に出席できること。

3. 応募部門（プランの対象別）

A. 保育園・幼稚園等の部　B. 小学校低学年の部　C. 小学校高学年の部
D. 中学校の部　E. 高等学校の部　F. 大学・一般の部

4. 募集期間

毎年9月頃～12月頃に募集。詳細は、ホームページ上でお知らせいたします。

防災教育チャレンジプラン

■　防災教育チャレンジプラン実行委員会事務局
E-mail：cpinfo2865@bosai-study.net

■　防災教育チャレンジプランホームページ
http://www.bosai-study.net/

※E-mail アドレスは、予告なく変更することがあります。
最新情報は、ホームページでご確認ください。